

ふれあい交流
ぐみぐみ
～地域と共に歩む～

発行・編集：横浜博萌会 高齢者福祉センター

- 汲沢地域ケアプラザ
- 特別養護老人ホームしらゆり園
- ほほえみステーション

感謝！

汲沢地域ケアプラザ(高齢者福祉センター)
創立 25 周年の感謝をこめて



1997年、「地域の人々が、住み慣れた地域において安心して老いることができ、そして暮らし続けていくことのできる社会の実現」に向け、「地域とともに」をコンセプトにして設立しました高齢者福祉センター・汲沢地域ケアプラザは、ボランティアさんを含む多くの地域の皆さんに支えられて25周年を迎えることができました。あらためて感謝申し上げます。地域の皆さんの声と、センターに勤務する職員の思いを、記念特集号としてお届けします。

感謝！



道に迷った訪問先

ケアマネジャー

センターへの入職時、私は20代後半でした。土地勘も全くなく方向音痴なせいで、地図と睨めっこしながら訪問先を目指すものの道に迷い1時間近く遅刻した事もありました。苦い経験です。

「あいさつを元気よくやればいい」

第一ホーム 三浦龍也

入職当時、関わりを戸惑っている私に、ご利用者様が「挨拶を元気よくやればいいの」と声を掛けて下さいました。

成人式を前に「来月成人式なんです」と話すと「あなたのスーツ姿がみたい」と話されたので、成人式当日にしらゆり園へ。到着するやいなや「ホントに来てくれたね。ほら一周して皆にみてもらうよ」と杖歩行で（普段は車椅子で移動される方でした）フロアを一緒に回り「うちの若旦那が成人しました」と大きな声で言ってくれたのが一番の思い出です。

子どものころからなじみのセンター

しらゆり園 第二ホーム

私は小さいころからしらゆり園に遊びに来ていました。普段は1階の図書室で本を借りたり、勉強したりしていました。夏には夏祭りに参加したりしていましたが、2階と3階がどうなっているのかが小さいときから気になっていました。興味を持って入職して2階と3階が見られて少し感動しています。



あの日の、忘れられないエピソード

高齢者福祉センターで働く仲間の、働きはじめた頃
当時の思い出のエピソードをご紹介します

「おてもやん」で採用？

デイサービス ケアワーカー 小原ユミ子

私は研修でデイサービスへ伺ったとき「何か特技を」と言われ「おてもやん」を踊った。

そのお陰か職員募集の電話が入った。「おてもやん」で採用されたか？

その後18年、膝蓋骨骨折や補聴器を付けるようになったが体の不自由な利用者の気持ちに寄り添いながら自分が成長した。



ボランティア、実習、そして入職

ほほえみステーション 廣中由紀子

私が高齢者福祉センターを初めて訪れたのは今から22年前、大学2年生の時でした。ボランティアをきっかけに、実習、卒論、アルバイトとお世話になり、そのまま新卒でケアワーカーとして採用していただきました。その後は生活相談員、登録ヘルパー等を経て、現在はほほえみステーションでサービス提供責任者として勤めさせていただいています。これまでに2回の産休・育休取得、その時々で働き方を考慮していただく等、上司はじめ、先輩、同僚、まわりの方々や環境に恵まれているからこそ、ここまでやってこられたと思っています。



「世話になったな、ありがとよ！」

しらゆり園 看護師

「ちゃきちゃき」江戸っ子で女性、話し方が男前な方でした、食事が喉を通らない日が続き衰弱が進んでいたある日、やがて呼吸苦や全身の浮腫等で身の置き所がなく、薬ではどうしようもなくなった時は、介護士、看護師、相談員、機能訓練士など総出で背中をさすり、手を握るなど傍で触れあい不安の解消に務めました。同じフロアにいるご利用者様も私たちに代わって声をかけて、同じように体をさすってくれている時もありました。「世話になったな、ありがとよ」と言いながら息を引き取られました。普段は一匹狼的な方が、職員だけでなく、一緒に暮らしていたご利用者に囲まれて安堵な最期を過ごせたのかと思いました。

ボランティアさんの優しい一言

地域係サブコーディネーター

両手の指を数え往復しても足りない年月を勤める事ができた一番は“ボランティアさんに支えられて”の一言に尽きます。仕事に詰まった時に「大丈夫よ」とそっと声を掛け背中を押してくれるボランティアさん。優しい一言とおだてに何度も助けられました。

おばさんおじさんばかりの職員

包括支援センター
人材の若返りが必要です。自分を含め、おばさんおじさんばかり。若い人のフレッシュな意見が必要だと思います。



気楽に外へ出かけられる日が！

しらゆり園 第二ホーム
私が入職し5年たちますが、台風やコロナで一度も夏祭りを開催できていませんので、コロナが落ち着いたら夏祭りなどの外に出る系のイベントをご利用者様と一緒に出来たらいいなと思います。

家に帰れば「お父さん」、「お母さん」

しらゆり園 第二ホーム
職場や私生活で環境や肩書が変わっていくのと同時に、職員も誰かの大切な「娘、息子」であり、一家の「お父さん」であり「お母さん」であり、家族のケアをしていたり、面白い特技や趣味があったり…それぞれが職場とは違う役割や、世界がある「人」であること深く実感しています。そんな「人」を尊重し活かせる…だからこそ出来るケアがあるというしらゆり園を目指したいと思います。

コロナ禍から脱却、日常を取り戻す

総務課
コロナ禍に入職をし、以前は行なわれていた納涼祭など地域との交流が出来なくなったり、面会が直接できなくなったりと、様々な事を目の当たりにしました。直接でなくても交流ができ、しらゆり園のことを知って貰えるようSMSを使用した発信などを行っていきける環境を今後作っていきたいと考えています。

これからの未来へ向けて

私たち高齢者福祉センターのひとりひとりが抱く”未来への思い”をご紹介します

自身のスキルアップを目指して

地域係
現在は上司の方に助けて貰うばかりの立場な為、少しでも自立し、安心して仕事を任せて頂ける様にただひたむきに自分自身のスキルアップに励みたいです。また社会人として自覚を持った行動を心掛けたいと思います。

よいケアは自身の健全な健康づくりから

第一ホーム 玉野亜由美
最近になって自分の体調に変化を感じる事が多くなってきました。これを少しでも緩やかにするために、ジョギング等を始めたところ、数カ月で体形は数字的に見ても激変し、気力もアップ！美味しく食べらる料理を作ったりと、自分の身体に優しくなった気がします。自身が心身健康でないと良いケアはできません。部下に対し適切なアドバイスもできません。エイジングと上手く付き合いながら仕事をしていければと思っています。



コミュニケーション力、共感、傾聴力を！

相談調整
私の仕事への抱負は、「コミュニケーション力、共感、傾聴力を磨き、言葉や態度に表出されていない内面を読み取り、仕事に反映させる」ことです。ご利用者やそのご家族とより多くのコミュニケーションを取り、言葉にされていない真意を汲むことで、しらゆり園で生活しているご利用者のQOL向上を目指すことが目的です。ご利用者が多様化している今、職員も日々成長できる職場環境となるよう研鑽していきます。

地域のみなさまへ心より感謝申し上げます

今後とも大事にお付き合いを

汲沢地区社会福祉協議会 本田 馨 会長

誰でもが安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として各種取組みをおこなっているのが「地域ケアプラザ」です。

汲沢地区社会福祉協議会も同様の取組みを行っていますが、ケアプラザは我々の唯一の活動拠点となっている处でもあります。

小生とケアプラザの出会いから 12 年経過しました。当時はサラリーマン生活から第二の人生を踏み出した頃で、ケアプラザの存在は小生の第二の人生の歩みそのものと言え、今後とも大事にお付き合いをしていく所存です。



汲沢地区

「連合レクリエーション大会」



北汲沢地区

「統一防災訓練」

遠き存在だったケアプラザも、交わりを深めて今は

北汲沢地区社会福祉協議会 小川 勉 会長

創立 25 周年おめでとうございます。私が新人だった頃、汲沢ケアプラザは遠き存在でした。H23 年ケアプラザが中心となり、地区別計画推進会議を開催。何回かの会議を経て、3 地区の意見を集約し、第 2 期ハートプラン作成に尽力。その結果、エリア内情報が共有、親密度が格段に向上。同時にケアプラザも各地区の定例会や諸行事にも積極的に参画し、地域住民との交流も深まり、今日では私より詳しいのでは？ 今後ともよろしくお願い致します。

さまざまなご縁～地域とのつながり～

踊場地区社会福祉協議会 坪島 博子 会長

汲沢ケアプラザとの接点は、もう 20 年近く前戸塚中の教員時代に当時初めての職業体験学習を企画し、協力をお願いに伺ったのが最初でした。とても温かく対応していただきありがたかったのを覚えています。その後私は母の介護もあって早期退職し、母はもちろん、私自身もボランティア、ヘルパー、踊場地区社協の一員として関わりが深まっていきました。「おどりばちょこっとボランティア」の立ち上げ時には数々の支援をいただき本当に感謝しております。これからも、地域のさまざまな面で頼れる存在でいていただきたいと思ひます。



踊場地区

「おどりばちょこっとボランティア」

「地域とともに」そして～これからも「地域とともに」

高齢者福祉センター長 神林 攻一

私たち高齢者福祉センターが目指すのは「地域の人々が、住み慣れた地域において安心して老いることができ、そして暮らし続けていくことのできる社会の実現」です。介護が必要になっても近くに相談するところ、訪問介護、通所施設や入所施設があれば、家族や地域との繋がりが保てます。

センターは地域に根差した施設として設立しました。25 年経った今、特養しらゆり園やデイサービスには 2 世代の親子さんやご夫婦でご利用されている方々がいます。いつでも駆けつけられる距離です。ここまでに至る地域との関係は、ボランティアさんをはじめ地域の皆様のご理解とご支援があったることと、あらためて感謝申し上げます。

センターはこれからも「地域とともに」の心をぶれることなく、地域の皆さんに信頼される福祉施設として努めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

令和 5 年 吉日